平成29年度入学生用カリキュラムマップ

【臨床教育学研究科 臨床教育学専攻　博士後期課程】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．知識・理解		2．技能・表現		3．思考・判断		4．態度・志向性	
					1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2
17DCEC1101	特　別　研　究　Ⅰ	1	博士学位請求論文に向けた半構造的な科目である。科目の目的は、受講者の博士学位請求論文における問題意識、方法、オリジナリティの確認にある。	博士学位請求論文の完成にあるが、その過程で必要となる、論理的思考、問題に即した研究方法の確立、分析方法の習得、問題に即した議論、の各要素の習得を一つの目標としている。これらを確実に身に着けることにより論文完成が近づくことになる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC2102	特　別　研　究　Ⅱ	2	博士学位請求論文に向けた半構造的な科目である。科目の目的は、受講者の博士学位請求論文における問題意識、方法、オリジナリティの確認にある。	博士学位請求論文の完成にあるが、その過程で必要となる、論理的思考、問題に即した研究方法の確立、分析方法の習得、問題に即した議論、の各要素の習得を一つの目標としている。これらを確実に身に着けることにより論文完成が近づくことになる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC3103	特　別　研　究　Ⅲ	3	博士学位請求論文に向けた半構造的な科目である。科目の目的は、受講者の博士学位請求論文における問題意識、方法、オリジナリティの確認にある。	博士学位請求論文の完成にあるが、その過程で必要となる、論理的思考、問題に即した研究方法の確立、分析方法の習得、問題に即した議論、の各要素の習得を一つの目標としている。これらを確実に身に着けることにより論文完成が近づくことになる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC1001	臨床教育学特別演習A	1	受講生のみなさんが、現代の人間諸科学における臨床教育学の位置、その課題・方法・概念などについて全体的な展望を持ち、そのなかで自分自身が行おうとする研究をできるだけ正確に位置づけられるようにすることが、この科目の目的・目標である。	科目の目的を達成するために、現代の精神医学、福祉学、臨床心理学、教育学の到達を示す内外の文献を丁寧に読む。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC1002	臨床教育学特別演習B	1	自らの論文作成計画の作成。論文構想の作成。	ユニークな学術論文の作成能力。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC1003	臨床教育学特別演習C	1	教育社会学、社会学を中心とする日本内外の先行研究を通じて、その研究手法や問題解決への手続きなど、研究者としての力量形成をはかる。	1．論文の精読を通じて、社会学の調査方法や分析概念を理解する。 2．具体的な事例について、社会学的な観点から、多角的に捉えられるようになる。 3．上記を通じて、社会学的な観点から現象を捉えられるようにする。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC1004	臨床教育学特別演習D	1	道徳教育教育研究の全体的動向を学会誌を基に概観しながら、特に学校の教育課程における道徳教育について、歴史的・国際的視点を重視して、理論的、実践的分析を行う。	1．道徳教育の本質について、理論的に理解する。 2．日本と世界の道徳教育の動向について理解する。 3．日本の学校における道徳教育の理論と実践について理論的に分析する。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC1005	臨床教育学特別演習E	1	本科目は、博士後期課程における基礎的研究として位置づけられる。人間発達は、すべての年齢段階で進むものである。この変化する人間という考え方なく、人を対象とした研究は成立しない。本授業では、内外の文献を講読しながら、その臨床教育学的な意味について検討していく。	本授業では、発達心理学研究の広がりについての意識形成を目標としている。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．知識・理解		2．技能・表現		3．思考・判断		4．態度・志向性	
					1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2
17DCEC1006	臨床教育学特別演習F	1	本授業は、学校現場でおこりうる様々な問題への解決法の構築を目的にする。 事例を通して、特別支援教育や学校カウンセリング、地域資源の利用等の知識を習得し、集団討議によって、受講生が具体的支援を実行できる技量を高める。	1．学校臨床学特論などで習得したさまざまな基礎知識を、実践して行く際に効果的に利用できるようにする。 2．事例検討と集団討議の形式に慣れ、積極的発言ができる。問題の焦点化、チーム体制作り、協力してくれる外部機関の利用などを習得する。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC1007	臨床教育学特別演習G	1	子ども虐待に関する諸外国の取り組みを中心に研究を行う。	アタッチメント、洞察や内省といった力動的視点から親子関係を見る視点を養う。 特に発達等で成長に課題を持つ子どもとその親の力動的な関係性を評価できる視点を養う。 その上で、関係性の促進や変容が起きるような支援方法の探索を行う。 これらの内容は文献講読が中心となるが、実践事例を通して理解・評価・支援の方法を自らが考案できるところを30回の授業において目指す。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC1008	教育学特別演習A	1	教育学に関する必須先行研究がいかなるディシプリン、スタンス、アプローチによって成立しているかについて深く理解し、完成度の高い研究をするための学的技法を習得する。	1．取り上げた著作の読破と考察をとおして論述、論証という学的行為について理解している。 2．取り上げた研究を通して国内外の研究動向を理解し、そのことを踏まえて、さらなる検討課題に言及することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC1009	教育学特別演習B	1	こどもの幼児期にかかわる教育について探究する。とくに基本的生活習慣の形成やそこでのつまずき、子育て、こども・家庭支援、家庭教育、愛着性の形成および親子関係、宗教観・信仰や倫理・価値の形成と転換（回心）など種々の先行研究を参考にしながら理解する。さらにこどもの教育にかかわる種々の研究の方策についても理解してゆく。	幼児期からのこどもについて教育にかかわる研究の方策について理解する。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC1010	教育学特別演習C	1	教育方法学の分野で博士後期課程１年次においてこれから研究を進めるにあたって必要な研究能力と問題関心を養うことを目的とする。	博士後期課程での研究のよいスタートを切るために必要な研究技法・問題の設定・研究計画の立案・データ収集と分析の方法などが受講生が各自の問題関心にそくして実際にできるようになることが到達目標である。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC1011	教育学特別演習D	1	臨床的人間形成論の領域で研究を遂行するための知識、技能、方法論について、基礎的な理解を獲得し、受講生の各々が自分なりに研究実践を試みる。	博士学位請求論文作成のための基礎的技能を習得する。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC1012	臨床心理学特別演習A	1	青年臨床心理学を中心に、臨床心理学に関する高度な研究能力と実践能力を習得することを目標とする。	青年期の心理的諸問題について理解を深め、悩める青年たちに臨床的に関わる心理技法を学ぶ。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC1013	臨床心理学特別演習B	1	臨床心理学、特に児童・青年臨床心理学に関する高度な研究能力と実践能力を習得することを目標とする。	課程博士にふさわしい児童・青年臨床心理学の応用的知識を習得することを到達目標とする。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
17DCEC1014	臨床心理学特別演習C	1	発達障害をはじめ子どもたちの発達上の問題を神経心理学的に理解するためのリテラシーと、エビデンスに基づく適正なアセスメントと支援のできる臨床力を涵養する。	発達障害に関する内外の神経心理学的文献を自在に読みこなし、そこから得られた知見を自身の固有の研究や臨床の中に演繹的に用いることができるようになる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号 凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目							
					1．知識・理解		2．技能・表現		3．思考・判断		4．態度・志向性	
					1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2	4-1	4-2
17DCEC1015	臨床心理学特別演習D	1	犯罪臨床心理学を中心に、臨床心理学に関する高度な研究能力と実践能力を習得することを目的とする。	犯罪非行臨床における心理査定や矯正処遇を実践できるとともに、実践を通した臨床的研究ができるだけの能力を身に着けることを目標とする。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎